

令和6年度 八王子市立横山中学校経営報告

八王子市立横山中学校

校長 竹田 幸恵

1 学校教育目標

『自律 協同 勤勉』

進んで学習し、よく考える人になろう（知育）

礼儀正しく、思いやりのある人になろう（徳育）

心身をきたえ、ねばり強い人になろう（体育）

→【今年度の重点目標】いのちと健康の大切さに気づき、考え、行動する生徒を育てる

人間の多様性を尊重し、生徒一人ひとりが自分らしく生きるための教育活動の改善と充実に努める。

広い視野をもち、社会に役立つ人になろう（社会貢献）

●教職員一同感染症や風邪にもかかるが、長期の休職に至ることはなく元気に年度末を迎えられた。

●生徒主体での委員会活動や個別の相談体制が評価され、全国健康づくり優良校の表彰を受けた。医療、教育相談、外部機関との連携を継続し、実践を積み重ねることで生徒の心と体の健康を維持したい。

2 目指す学校像→「花信風 愛溢れる学校」

花信風（かしんふう）とは、春や初夏の風が、木々、幹、葉、そして根にエネルギーが伝えられ美しい花を咲かすという言葉である。生徒たちもこの学び舎で信風を吹かせてほしい。困っている友達に優しいさりげない風を、授業の中で積極的に質問し学ぶさわやかな風を、そして何事にもチャレンジするさわやかな風を吹かせてほしい。生徒一人ひとり素敵な花を咲かせることを祈願する。

《生徒・保護者・地域の信託に応える～愛溢れる学校～》

キーワード 安全・安心 基礎・基本 親切 自己肯定感 信頼

○【楽しい横山中学校】生徒にとって学校に行くことが楽しみになる学校

○【信頼される横山中学校】保護者にとって子どもを通わせて本当によかったと思える学校

○【生涯学習を担う横山中学校】郷土を愛し、伝統文化を継承し、地域にとって誇りとなる学校

○【個性や創造力を伸ばす横山中学校】

教職員にとって子どもたちの成長に誇りと働きがいを感じられる学校

●教師の授業中の言動をアンケート等で御指摘されたことがあった。否定的な指導から肯定的な言葉かけによる全体指導や言葉かけを研修等で確認し、愛情を感じる行動や言葉かけを全教員で継続して行う。

●学校経営方針「生徒・保護者・地域の信託にこたえる愛溢れる学校」について25, 9%の保護者が知らない状況が明らかとなった。学校経営方針が学年経営、学級経営へと浸透するように学年経営方針、学級経営方針を学校全体で共有し、振り返る仕組みを構築する。

3 学校運営の重点

〈安全で安心な学校づくり〉

（1）いじめを受けた等の訴えや不登校生徒へは親切・丁寧・迅速に対応する。

（2）生徒指導は学校組織全体で丁寧に取り組む。

（3）特別な支援を要する生徒に関する情報を全教職員で共有し、可能な限りの合理的配慮を行う。

（4）防災教育推進体制を整え、かけがえのない自他の生命尊重や健康・安全に対する意識や態度を養う。

（5）教育活動全体をとおして正しい言葉・言葉遣いを意識し、人権に配慮した言語活動の充実を図る。

●「学校は、子どもたちが安心・安全に過ごせるように、避難訓練などの安全教育に取り組んでいる」の学校評価アンケートでは、93, 5%の肯定的な支持を得られた。地域の誇りとなる学校へ尽力する。

〈小中一貫教育〉

(1) 「はちおうじっ子キャリア・パスポート」を活用して、小中連携した学習や生活の振り返りを行う。

(2) **9年間で育てたい児童・生徒像を「自分の命、他人の命、地域の学び舎を大切に作る児童・生徒」～あいさつがこだまする愛溢れる横山中校区～**とし、防災教育を主軸とし、小中一貫教育のさらなる充実を図る。

- 小中一貫教育の取り組みに関して、学校評価アンケートでは99, 1%の肯定的な意見を得られた。小中一貫縦割り班の取り組みは、あいさつ運動、地域清掃活動、リクリエーションによる絆を深める活動にとどまらず、最終地点は地域防災での命を守る取り組みへと発展していけるよう尽力する。

〈学習指導〉

(1) 確かな学力の定着と向上を図り、基礎的、基本的な知識・技能の定着と活用する力を育成する。

(2) 個を尊重し、習熟度別少人数指導（数学）、少人数指導（英語）、個別指導、放課後学習の時間を充実させる。

(3) 授業目標が見える化し、「主体的・対話的で深い学び」と振り返りを取り入れた授業展開を工夫する。

- 意欲的な授業の取り組みについては、84, 5%の肯定的な評価を得られたものの、授業観察で授業目標が見える化されてなかったり、個別の生徒の力量以上の課題が出される現状もあった。生徒のやる気の出る授業をめざし、ここに応じた課題が解決され、生徒が進んで学習へ向かう評価の在り方を全教員で研修し、実践することで、さらなる充実をめざす。
- 「学習活動による評価は適切・公平である」は19, 0%が否定的な回答、16, 4%がわからないと回答している。評価説明会を充実させ、各授業内でも生徒たちへのわかる評価説明を行い、主体的な学びにつながる評価をめざし尽力する。

〈道徳教育〉

(1) ペップトーク実践モデル校の実践を通して、生徒一人ひとりに地域社会の一員として、優しい言葉で心穏やかな生活をしていく力を身に付けさせる。

(2) 青少年赤十字加盟校の利点を生かし、道徳授業地区公開講座等を充実させ、保護者・地域とともに生徒の規範意識の向上に努める。

- 全学年でペップトークを意識した道徳の授業を行った。保護者向け研修、地域向け研修、全校道徳による講演などを通して、横山地区全体が優しい言葉で穏やかな生活ができる環境を作りたいと願う。地域の防災士からの体験談、防災フェスタでの青少年赤十字職員による防災への取り組みと新聞スリッパ制作を通して命について考える時間を共有することができた。
- 学校評価アンケートでは、82, 3%の肯定的な評価を得た。

〈総合的な学習の時間〉

(1) 全教員で指導にあたり、地域等の教育力を生かしながら、指導方法の工夫・改善及び内容の充実に努める。

(2) 「横山中学校2020レガシー」の取り組みとして、日本の伝統文化の良さを継承、発展させながら、郷土愛や異文化理解を推進する。

- 特色ある取り組み「小中一貫、郷土理解を深める取り組み」についての評価は、87, 9%が肯定的な評価であった。地域を知る学習（高尾山）、東京都内めぐり、関西修学旅行、笑顔と学びのプロジェクトは八王子の劇団新制作座による「泥かぶら」の公演は大変好評であった。
- 地域力を生かした防災教育にも今後尽力する。

〈特別活動〉

(1) 「誇れる上級生、学ぶ下級生」を生徒会活動の目標とし、自主・自立の精神を育てる。

(2) 学校行事は、学校にかかわるすべての大人の協力を得て、生徒のための学校行事を創造する。

- 3年生の後ろ姿を見て、1，2年生が学ぶことのできる体育祭、合唱祭、での成長する姿は横山中の歴史を創造する大切な機会である。地域と保護者とともに協力する行事として大切に育みたい。

〈生活指導〉

- (1)「あいさつをする」「人の話を聞く」「時間を守る」「責任をもつ」「言葉遣いを意識する」を基本におく。
- (2) 善悪の判断、社会的な規律・規範意識を育て、いじめや非行、暴力行為等を絶対に許さない学校文化を創る。

〈進路指導〉

- (1) 生き方指導、キャリア教育としての進路指導を実践する。
- (2) 勤労の尊さを理解させるとともに自己実現を目指す生徒を育む。

- 『『はちおうじっ子キャリアパスポート』等を用いて、子どもの生き方や将来についてのキャリア教育を行っていることを知っている』は94.0%の肯定的評価を得られた。継続して指導する。

〈特別支援教育〉

- (1) 特別支援教育コーディネーターを中心に組織的支援体制を一層充実させる。
- (2) 特別支援教室に関する学校からの情報発信の創意工夫を図り、支援体制を保護者、地域へ継続的に伝える。

- 「学校は、特別支援教育（特別な支援を必要とする子どもに対しての教育）に取り組んでいる」に対して、26.3%がわからないと答えている。特別支援教室の取り組みについて、年度当所の1学年朝礼で担当の巡回教員より生徒へ説明を行った。来年度は、通常の生徒にも生活に役立つ自立活動をふまえた授業を体験することでさらに理解が増すように計画を立て実践する。

4 基本方針

「八王子市教育委員会の主要施策」を踏まえ、本校教育目標の実現と、生徒・教師ともに学び合う学校づくりを目指す。『安全・安心 基礎・基本 親切 自己肯定感 信頼』をキーワードに全教職員の力を結集し、子どもたちが自律し生き生きと輝ける愛溢れる学校経営に努める。

5 個別方針

(1) 生徒にとって

- ① 人権尊重と自主・自律
- ② 基礎基本の学力定着
- ③ わかる授業と適正な評価
- ④ 言語活動の充実
- ⑤ 補習等個に応じた指導
- ⑥ 特別支援教育の充実
- ⑦ 道徳教育、キャリア教育の充実

(2) 保護者・地域にとって

- ① いじめ、不登校への迅速丁寧な対応
- ② 防災、安全教育の充実
- ③ ボランティア等地域貢献活動の推進
- ④ 家庭・地域との連携強化
- ⑤ 小中一貫教育の推進
- ⑥ 家庭学習習慣の定着
- ⑦ 学校からの情報発信の創意工夫

(3) 教職員にとって

- ① カリキュラム・マネジメントの推進→教科等横断的な視点、学校評価の適正実施、人的物的支援
- ② 研修と授業改善→明確なゴール、指導と評価の一体化、学び合い振り返り、ICT 活用
- ③ 組織的対応→誠実、丁寧、迅速、報告、連絡、相談、記録の徹底
- ④ 校務、会議等の一層の効率化→C4th 掲示板の活用、生徒へ向き合う時間、タイムマネジメント
- ⑤ 教育環境整備、適正な予算執行→危機管理意識、コスト意識、学校事務の効率化、ペーパーレス化
- ⑥ サービスの厳正→教育公務員、社会人としての深い自覚、生徒・地域の範たる言動

6 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

①いじめ対策委員会の充実と不登校生徒の解消

ア いじめ防止対策委員会の開催にあたり、個人情報流出をさけ、ペーパーレスの会議を継続する。

会議は、タブレット端末を持参して行い、資料は事前に把握し、会議では一人一人の生徒の共通配慮、共通実践についての確認とする。

- 「いじめの未然防止、早期発見、早期対応等、いじめを許さない学校づくりに組織的に取り組んでいる」の学校評価アンケートでは、11, 6%が否定的な見解を示している。いじめ研修会では、今年度1番大きな事例と対応について全体で共有する機会を設けた。来年度の取り組みとして個別の面談の重要性が挙げられた。来年度の教育課程に個別の面談を定期的に位置づけ、未然防止を進めていく。

イ SC、学校サポーター、SSW、子ども家庭支援センター、中央図書館、榎原給食センター等と連携し、不登校の未然防止につとめ、連続欠席3日、連続欠席13日、欠席合計30日、欠席合計50日の節目対策を実践する。

ウ 登校支援コーディネーター、特別支援コーディネーター、いじめ対策コーディネーターと協力して、毎日別室登校の生徒の様子を把握し、民生委員を中心としたボランティアとの連携を図り、新たな不登校生徒の出現を3%以下にする。

- 9月より、不登校対策として民生児童委員との「親カフェ・子カフェ」の試行を行った。はちびばによる活動の提供や進路の決まった不登校生徒と親を交えた交流などにより、別室登校等へ結び付けることができた生徒がいて成果を得られた。欠席50日以上の子との校長面接で外部諸機関につなげることができた生徒が複数いる。新たな不登校の出現率は3月現在2%である。

②教職員の人権感覚の向上

ア 校内巡回を毎日行い、人権に配慮し、生徒の呼名はさん付けとし、職員の言動の把握と指導をする。

イ 年間5回の服務事故防止研修では、資料を事前に示し、研修後は各教職員が取り組むことを自己申告書の備考欄に明記させる。

③確かな学力の向上と生活指導の徹底

ア 教員の授業観察を年3回以上行い、毎回観察記録をとり、自己申告面接時に授業者と共有する。

イ 毎学期評価計画を提出させ、授業と評価の一体化について指導・助言を行う。

ウ 年度当初に、授業規律、清掃指導、安全指導についての周知を行い、全教職員で指導にあたる。

エ 特別支援教室専門員を活用し、授業観察等を通じて配慮生徒の早期発見、早期対応、早期解決を目指す。

オ 毎週水曜日放課後の補充教室の立案を進路学習部に位置付け、学校運営協議会の協力のもと、全教職員で生徒に個別対応学習を行う仕組みを継続実施する。

- 「学校は、子どもたちがよりよい学校生活を送れるように、生活目標を設定したり、決まりを守ったりする指導を行っている。」84, 5%が肯定的な意見を示している。

④GIGA スクール構想の確立

- ア 1学期中にタブレット端末による補充学習、家庭学習への取組への実現を図る。
- イ 年間を通じて、行事は対面とオンラインの双方の計画案を起案し、ハイブリッド開催で学びを止めず、全生徒が参加できるように配慮する。
- ウ 小中一貫教育の全体会、分科会、をハイブリッド開催でオンライン化を継続し、9年間を通じて地域と連携することを立案し、教員自らも学びを止めない環境を構築する。

●「学校は、授業において、説明、板書、話し合い活動、ICT 機器（一人一台の学習用端末を含む）の活動などの工夫に取り組んでいる」は、82、8%の肯定的評価を得ている。

⑤働き方改革の推進

- ア 事務連絡時間を短縮するため、C4th の閲覧（連絡掲示板と個別連絡の活用）を充実させる。
- イ 月2回のノー残業デーを年度当初に周知する。年7回の学校閉庁日は、夏休、振休等にあて部活動も実施しないよう指導する。
- ウ 職務に応じた勤務の割振りを行い、同僚性を養い休憩時間を確保することで、時間外勤務が月80時間を超える教員が1学期20%、2学期10%、3学期0%となるようにする。

●80時間を超える教員は0%を実現する月があった。継続するよう環境を整える。

(2) 重点目標と方策

①地域・保護者への親切的対応と信頼関係の構築

- ア 経営支援部を経営教務部とし、ホームページや学校だより、メール配信を定期的に行い、生徒や教職員の取り組みを情報発信する。

●「学校は保護者に対して、学校だよりやホームページ等で適切に情報を提供している」は、88、4%の肯定的評価を得られた。

②校内予算の有効活用と生徒との時間確保のためにペーパーレス化促進

- ア すべての会議の時間短縮を図り、生徒との時間を確保するため、ペーパーレス化を促進し、会議はタブレット端末と必要に応じてスクリーンの共有で行うように継続する。
- イ 保護者への配布文書の紙面配布の見直しを1学期中に行い、ホームページ、メール配信する配布物と紙面配布を併用するものを決定し、随時実施する。

③愛溢れる学校への取り組み

- ア いじめ対策委員会の充実と不登校生徒が学校以外の学び舎での登校を認め、大人との関わりが皆無になることないようにするなど、いじめ対策委員会での取組として、定期的な個別面談を丁寧に行い、記録を残し在学中のケアがいつでもできる体制をつくる。

50日以上欠席の生徒は、必ず校長との個別面談を実施する。

- イ 小中一貫教育の取組として、卒業生・入学生の情報交換を3学期に丁寧に行う。必要に応じて外部機関とも連携する。

④防災フェスタへ向けて

- ア いのちを守るために生徒会・委員会活動を中心に防災フェスタへの参加を視野に1年間の計画をたてて実行していく。
- イ 小中一貫教育縦割り班を活用した防災教育を地域と共に推進する。

●今年は、2年生が参加し、今後の活動を生徒が考え行動するとした。来年度は、1、2年生の生徒が参加し、1年間学んだことが明らかになるよう防災フェスタをバージョンアップさせたい。

⑤その他

- ア 印刷物はA版とする。B版はコスト高なので今後購入はしない方向で計画する。
- イ 不登校生徒、特別支援などで合理的な配慮の必要な生徒に対し、全職教員が優しい言葉と対応を心がける。

